1.こんこんこんばんは・前

こんばんは。……ああ、この声、やっぱりそうだ……やった……やった。
ここ、開けてください。
……私は、ナガヌキ。ナ、ガ、ヌ、キ。
あの時のお礼、……を、させてもらうべく馳せ参じました。
……苦心しましたよ。貴方がどこの誰だかまったく分からずに、
そこいら中を駆け回ってようやく……、でも、後ろ姿ですぐ分かりましたから。
貴方の背中は、あの時と同じでした。あの時と……。
……ここ、開けてください。早く。たっぷりどっぷりお礼させてください。
今日この為に私、知略を張り巡らせたんですよ。
始めは右も左もといった感じでしたが、何とか……。
だからほら、早くここ、開けて。試したくてうずうずしてるんです。
え？　……ど、どうして？　そんな、そんな。だって私、貴方に……。
ほら、あの、覚えてらっしゃいませんか。
私はあの時、ズタボロでした。まっすぐ歩けずに、意識も朦朧として、
視界は霧がかって……、そんな私の前に貴方は……。
最初は、実は怖かったです。だってだって、ひとは怖いものなのよって、母様が。
私……死にたくない、やめてくださいって、叫びました。
でも貴方は……そんな私に、鶏肉をくれました。嬉しかった。
……思い出しました？　……はい、そうです。私は、野狐（やこ）。
正確には黒野狐（くろやこ）。……身体が、その、黒いので……。今は白いですが。
恥ずかしながら、修業を積まぬ凡庸な狐の妖（あやかし）です。
……なんですか、その声。……信じてませんね？　むぅう。
野狐はひとを化かします。たった今、化かしてます。なうです。
というわけで、恩返しにやって来ました。ここ、開けてください。

え、……まだ信じてくれないんですか？
いや、あの、私は妖力（ようりょく）の弱い妖なので……、
ひとたび姿を戻せば、四十八時間（しじゅうはち）は化けられぬのですよ。
だから、その、信じてください……。お願いします。何でもしますから。
ほら、危険物とかも持ってないです。ポケットの中も、ほらほら。
この着物の下、何もつけてないですし。……え、どうしたの？
なに、どうしたんですか。……そうですか？　じゃあ何も聞きません。
……あ、着物はですね、妖相手の仕立て屋がいるのです。
でも、……うう、これらを買っただけで全財産なくなっちゃって……。
野狐だからって舐められて、ぼったくられました。
とは言え、こうしてひとの姿で貴方の前にたどり着けたので……良かった。
ねえ……、……ダメ？
あっ……。ちょっ、待っ……。だめ、待って、ねえ、私、まだ。
あ！
ありがとうございます。えへ……うれしいなぁうれしいなぁ。
ではでは、小汚い踵（きびす）で申し訳ございませんが、お邪魔いたしますね♪
うふふふ♪

2.こんこんこんばんは・後

……あは、うふふ、クククッ……。
入れてくれてありがとう。
今度は私に入れさせてあげるよ。
クスッ……。
なんて、ね……。
そんなに怯えるな。私、本当に恩返しをしに来ただけだぞ。

貴様は命の恩人……。生涯かけても返しきれないがね。
ほんとだぞ？　ほんとほんと。信じて？
しかし、中に入れろと無理を申したのはこちらだが、
ひととして不用心すぎるんじゃあないかね、青年。
精々私以外のモノの口に耳を貸すんじゃあないよ。
どうなっても知らないぞ。……と言ってもな、もう貴様は私のモノだ。
誰の手にも触れさせやしないさ。
いいか、よく聞け。貴様、この耳に意識を集中してるな。そのままでいろ。
こちらもいつでも狙ってるぞ。
貴様をどうこうするは私の裁量であり気まぐれよ。
うふふふッ……。
古来より恩返しの一口噺は多い。いわゆる報恩譚（ほうおんたん）という奴だ。
しかし言伝（ことづて）や手記による他人の物語などは、単なる絵空事に過ぎぬ。
今宵は、さながら信憑性そのもの、夢うつつ白昼夢のひとときを、
それを……。
貴様にくれてやる。私を全部くれてやる。

3. いたずら夜もすがら

ほう、ふうん、良い家だ。狭くも広くもない。落ち着く。
……が、貴様は落ち着いていないようだな。そう警戒するな。
私は私でしかない。今は貴様へ恩返しする、ただの狐だよ。
始めはどうしたものか路頭に迷ったものだがね、これが一番良いと思った。
さて、まずはそこな居敷（いしき）に掛けてもらおうか。
楽にしたまえ。喜撰（きせん）と塩大福を傍（かたわ）らに拝む、新雪（しんせつ）の夕刻のようにな。フフフ。

どうした青年。顔が強張（こわば）ってるぞ。楽にしろと申したろうが。
……もしや、獣の匂いが鼻につくか？　仕方なかろう。私は狐だ。
ん、何だ、違うのか。……ほう。甘い……香り……ね。予想だにせん返事だ。
……そうか、そうか。
しかし貴様。鼻息が荒いぞ。
息を深く吸うがいい。吸って。……吐いて。また吸って。吐いて。
うん、良い子だな。素直、正直、実直である事は、余計な争いの芽を摘む。
ただそれが嫌味にならぬよう、従来より言葉遣いには気をつけろ。
だがね。私は貴様を知っている。
あの時、私に食べ物を恵んでくれた貴様の言葉は、優しかった。
嫌味の欠片も感じぬ、芯からの善意だと解せるものだったよ。
この口だ。心地いい声と温もりの言葉を吐き出す、この口。
私は貴様の口が好きだ。どれくらいかと言うとだな、それはな。
奪ってしまいたいくらいにだ……はむッ。
んッ……ふ……んふふ♪　ぅんッ……ん、れぉ……んんッ……、
んぅ……♪　んッ……、……ぷはッ――もっかい、もっかいしよ。
んふ♪　……んぅう……ッ……れろ……くちゅッ……ん……。
……あふッ……んッ、ん……、ふ、ぅ……はアッ、貴様、意外と、
はァッ、舌は乱暴なんだな……、……くすッ♪　ッん……んぅ……♪
……んくッ……んッ……ぅ、ふ……♪　れぉ……れろォ……。
んんー……ぅ……ぷ、はァっ……。
……ん、ふふ♪　これが……接吻、か。噂に聞くより、ずっとずっと、
気持ちの良いものだな。……相手が貴様だからか？　……おい、聞け。
呆けたツラを晒しおって。まったくひとの心とは度し難い……。
私以外に見せるなよ？　そんな間抜けヅラ。うふふッ♪
ふう。楽しくなってきたじゃないか。なあ青年？
ん？　……おいおい。果たしてここには獣一匹だとばかり思っていたが。
そ、こ。はち切れんばかりになってるぞ、このケダモノが。

ねえいつから？　どうして？　私としちゃったから？
それとも私の匂い？　私の姿？　……どうあれ私が元凶だな。
つまり「それ」の責任は、このナガヌキにあるという事。違うか……？
……貴様はどこまでも正直な奴だ。
正直ついでにもうひとつ申告してもらおうか？
「僕はナガヌキに興奮して、勃起してしまいました」。
聞かせろ。ほら。私の耳に、その舌先がえぐり込むように。
言え。
言え、変態。
……、……馬鹿か？　本当に言う奴があるか？
変態という問いかけに答えたも同然だな。貴様は変態なんだな。
分かった分かった。貴様は変態だ。変態。変態。変態。だが……、
言ってくれて嬉しいよ♪
変態な貴様がだぁい好きだぞ♪　すーきぃ♪
好き好き好き好き好き♪　んちゅッ……。
……ふふ。じれったそうだな。
まったく、嗜虐を煽る顔つきをしおって。ばーか。
悪いが、私は貴様と違って素直じゃあないんだ。そんな表情されたら……。
……する？　さっきの、もっかい。
……うん♪　んっ……む、んふ……♪　くちゅっ……れろ……、
んちゅ……んっ……んん……んー♪　ぅんんッ……、……ん♪
ん……、はぁ……はぁ……、……クスッ♪　好きだぞ……。
貴様も好きか？　……そうか、分かった。……分かった。
この部屋は、暑いな。ただ貴様と触れ合うだけで、滝のような汗だ。
ん……？　何だ、どこを見ている。……んん？
……腋？　が、どうかしたのか……？
何だ、何を言って……、……腋が見たいのか？
んー……、ほら、どうだ。これで良いか。
……おい、目、目が、何だその、まさしくケダモノのようだぞ。

貴様、こんなものに興奮しているのか。やはり度し難い……。
が、致し方あるまいて。趣味嗜好はひとそれぞれと聞く。
ほら、見ろ。そして興奮しろ。私をその、品性の欠片もない視線で。
犯せ。目で犯せ。いくらでも、満足するまで。
私はその下賤極まりない欲望に、どこどこまでも寄り添おう。
……、……はぁ……はぁ……、……ん……目は口ほどにと言うが、
貴様のはまさしくそれだな……。
私まで妙な気分になるではないか。なあ……？
……満足したか？　いや、むしろ高揚……。
はぁ……はぁ……、そろそろ貴様、我慢できなくなってきたんじゃないか。
いい、皆まで言うな。分かるさ。分かるとも。
どうやら貴様のそれは、顔を出したいと嘆く有様だが。
ああ。そうだな。
おちんちん、出そうか♪

4.全肯定狐

……、……大きい。先端から、何か……。
……さ、触っていい？　……うん。とりあえず、右手で……するよ……。
……ひッ。だ、大丈夫か。痛くないか。
そ、そうか。ああ、気持ち……よかったのだな。ああ、よかった。
……熱い。脈も感じる。まるでひとつの生き物のようだ……。
貴様は、……あっ、……あはは、何だその情けない顔は。
こう……だったかな。やさしく、上へ下へ、上へ下へ……。
おいおい、擦る度に声を上げおって……まるで遊戯のようではないか。
そんなに良いのか。
……ん、褒められるとまたむず痒い。でも、出来ているなら……嬉しいよ。
……、……なあ、……その、するか？
いや、あの、……ほら。……接吻。……したくない？

んッ……!？　……ん……♪　んふ♪
んぅう♪　ぅんッ……れぉ……はむ……ぅ……ん……♪
ぷはっ……、この時だけはいつも激しいなぁ、貴様は……♪
しながらだと、……おちんちん、さっきより硬く……、
クスッ♪　ん……♪　れろ……んぅ……♪　ぇぉ……♪
はあッ……♪
そんな……蕩けた目で見つめるんじゃない。
集中できないだろうが。……それとも、やり方を変えようか？
ならば、左手も……。待て。少し趣向を凝らそう。
どうだ。いたずらに素手で擦るのでは趣もない。
左手は……唾液に塗(まみ)れさせてみたぞ。
貴様と私の、淫らに染まり切った唾液同士だ。
言わば、この淫猥(いんわい)極まりないひとときの象徴。欲望の具現化。
これで貴様の……せがれの頭を、よしよししてやる。
右手に竿。左手に亀頭。腰を抜かさぬよう精々踏ん張れ。
アハ♪　ぬるぬるだな。おい、少しは声を抑えられんのか。
腰も引けているぞ。ああでも、今回は大目に見てやろうか。
だって、気持ちいいもんな？　気持ちよすぎるもんな？
いいよ、「気持ちいい」を存分に、
爪先から頭頂まで快楽の沼に浸かっていい。私が許す。
私が全部許すから。
だから、もっともっともっともっと！　欲望を貪れ♪　貪れ♪
貪れ♪　誰に見せるも痴態、生き恥、尊厳の失墜、
そんな無様を私は、微笑と共に見守る者だ。
私は嘲(わら)笑わない、失望しない、貴様のどのような姿態も、全て。
はぁ……はぁ……。

唇、唇を……寄越せ。
ちゅっ……んッ……んんッ……れお……、
んっ……んぅう……、はぁッ……はぁむッ……んッ……、
んんんぅ……ぷはッ……好きッ……んッ……♪　好き好きッ……♪
ありがとッ……私、本当に……感謝してるから……んっ……♪
貴様のおかげで私、ちゅっ……生き永らえて……んっ……♪
ここに、いるんだ……♪　もっと、んっ……♪　恩返し……させてッ……♪
ぅふっ♪　んっ……んん～ッ♪　んっ、ん……ぷはッ。
はあー……♪　はあー……♪
私の中ぁ……貴様の唾液で満たされていくぞぉ……。
さながら媚薬(びやく)だぁ……。私をォ……狂わせる気かぁ……。
……ぁあぁ……貴様の、貴様の……はぁ……♪
い、た、だ、き、ます……♪　んふ♪
んッ……ふ、ん……ぇぅ……んッ……ふッ……、
ぁぅ……れぉ……んぅ……んくッ……ん……♪
んぐッ……ふッ……ふッ……んぉ……ぇ……♪
ぅ……ぷはッ……、……ちゅっ♪　ちゅっ♪
きひッ……きひひ♪　きもちぃーい……？
……よかったぁ……、……貴様のおちんちん、おいしいぞ……♪
口の中で、びくびくびくびく震えて、熱くて、ねっとりして、
貴様にいただいた肉と同等だぁ。空腹は最高の何とやらか……？
飢えてる、私は飢えてるんだ、貴様に飢えてるぅ。
はむッ……ん、ぅ♪　じゅるッ……じゅるるるッ……♪
んんぅううう♪　はぃ、ほぉ（最、高）……♪　んぅふ……♪
ぅッ……ぅ……♪　んひ♪　ちゅぅ……♪　ぅぅう……♪
んッぅ、んッ……んむ……♪　ぉふ……♪　れぉ……♪
んっく……ぅ……ぉ……んぉ……♪　ぇぅ……♪
うぶ……ちゅっ……♪　ぅう……ぇぅ……じゅるッ……♪

ぅふッ♪　んぅ……んぅぉ……♪　じゅるッれろぉ……♪
んんぅ……♪
ぷはァ……、うふふふ♪　じゃじゃ馬の如しイチモツだなあ、貴様……♪
あー、んっ♪　ぺろッ……ぐッぷ……じゅるるッ……れろォ……♪
ぁふッ……ぇぉ……クスッ♪　ンゥう……れろッ……んっ……♪
れろれろッ……ふッ……ふッ……♪　んにぅ……♪　ぅふッ……♪
ぷ、は……、……震えてる、震えてる。今にも暴発しそうだ……。
……最後は、手がいいか……？　……ん……♪
また、両手でするね……♪　……わ、貴様の淫らな蜜と、私の唾液で……、
どろどろじゃあないか♪　この世のモノとは思えぬ有様だぞ？
うふ♪　きもちくなあれ♪　きもちくなあれ♪　うふふふっ。
そろそろイキそう？　イキそうか？　どうなんだ？　教えて？
……ああ、私もイってほしい。イクところ見たい。
貴様の射精、見せてくれ。目の前で見せてくれ。
いいか？　イってくれるか？　私の手淫でイってくれるか？
……分かった♪　何か、願望はあるかな？　……ん？　……よし、承知した。
すきっ、すきすきすきすきッ……♪　だぁいすき♪　すぅき♪
イって♪　すきっ♪　すきすき♪　射精しろ♪　すき♪　だいすき♪
ちゅッ♪　すきすきすき♪
すーきーだーぞー♪　だーいーすーきー♪　うふふふふ♪
イけ♪　イけ♪　イけ♪　イっちゃえ♪　イっちゃえぇ♪
ひあッ……。ぅふっ♪
出てるね、出ちゃったね、イっちゃったね、
すきすきすきすきすきぃ♪　すき♪　すき♪
きもちぃよね……私もきもちぃよ……♪　クスクスッ♪
……、……ちゅ♪
……これが、精液か。何とも……濃厚だな。見た目も香りも。
貴様の内にあるモノが凝縮されたような……。
アア……愛おしい……

ぺろ♪　れぉ♪　……ごくり。
ごちそうさま……♪
極上の味、だぞ♪

5.狐の嫁入り

……私は、貴様に恩を返したとは思わぬ。
命を繋ぎとめたのだ。これしきの事でその救いに報いただと？　あり得ぬ。
とは言え、しかし、……迷っていた。
……なぜなら、それは……私が……。
気持ち良くしてもらう形に……なるだろう？
始め私は……入れさせてやると言った。
貴様を喜ばす為に、貴様に……楽しんでもらう為に。
だが、こうして貴様と触れ合い、思ってしまったのだ。
私の要求はあまりにも図々しいのではないか、と。
……だが、しかし、しかし……！
私、私は……貴様と、貴様とだけはどうしても……、
交尾……したい。
入れさせてやる、じゃない。入れてほしいんだ……。
貴様とつながりたい。純潔を捧げたい。貴様に、貴様に……。
滅茶苦茶に犯してほしい。
……ダメか？
……ん♪　ありがと。……その、心から嬉しいぞ、あほんだら……。
……その。このような事を尋ねるのは……野暮ったいやもしれぬが。
貴様のその優しさは、よもや私以外に向けるものではあるまいな？
な？　そうだよな？　……うん♪　貴様はやはり、優しいな、ふふ♪
ちゅ……♪　んふ♪　この唇も、私だけへの恵み……♪
さて、どうすればいい……？　脱ぐ……か？　……ああ、分かった。
はは……、下半身はもう……見るも無様だろう。

貴様をさんざ弄んでおいて、私もその……昂り過ぎたようだ。
……この身体は……貴様の好みかは……分からない。
だが、貴様の好きにしてくれ。この身体は、隅から隅まで全て……、
貴様のモノだから。
どこからでも、どこでも、
……シていいから。
ひぁっ！　……ぅ、ぁ。……そう、か？　んッ……、
そんな、奇麗じゃ……ぁひッ！　ひぁ……ち、乳首……だめっ、そこ、なんか、
声、声がァ……ぅう、ううッ、こっぱずかしいぞ、貴様ぁ……♪
あぅッ……んぁッ♪　そんな、執拗にッ……ぃぁ♪　ゃぁあ……♪
貴様ッ、そこまで私の乳房（ちぶさ）が……あっ♪　……好きか？　……ふふ、そうか♪
ああ、たく……んッ♪　たくさん、触って……♪　揉んで、つねって……、
為（な）すがままに……して♪　ぁッ♪　ああっ……気持ちいいぞッ……♪

……えっ？　な、なに、を……？
なぜ、腕を持つ……？
――ひああッ！？　おッ、き、貴様ッ、そ、そんなところ舐めッ……、
馬鹿かッ！　わ、腋は、性器でもなんでもなッ……！　ぃッ……あ……♪
あ、汗とか、凄まじく……掻いてるんだぞ、汚いんだぞッ……。
ぅ……ち、違ッ……そん、そんな、私はッ……別に……ぅぅ……！
た、確かにどこでもとは言ったがそれはッ、ぅぅ、変態、変態ぃッ……♪
ぅくッ……だ、だめッ……もぉ、頭、身体、熱くて……。
えッ……？　あ、ぅ、……ぅ、うん……接吻……する。したい。
ん……？　気に……ならんさ、貴様の口が最後に何に触れていても、
私は貴様と……したい♪
んぅー♪　んっ……♪　んふっ♪　好きッ♪　んぅう♪
くちゅッ……れろッ……ぺろッ……んちゅ♪　んふふ♪

んッ……んんッ……んぅう♪　……ぷは。
……た、ぶん、ぁ♪　この感覚、きっと、ぅぁ♪
イクッ……イっちゃいそッ……して、もっと接吻してッ……！
しながらイキたいッ、お願いッお願いしますッ……、
んッ！　んぅぁッんっんちゅッ……んぅッ！？♪
んぁッ、んッ……！　んッんッぉ、ぁ、ぃ……！
んッ――ンンンんンんンンゥッ……！！？♪
ん……ぅ……れろぉ……、……ぷはッ……。
……ちゅっ♪
……舌を交えただけで……絶頂してしまったぞ……♪
どうしてくれるんだ♪　私もケダモノのようではないか……。
ん……♪　すき♪　すきだぞ♪　えへへ……。
……おちんちん、入れたい？
……うん。私も、入れてほしい……♪　たくさん愛してほしい……♪
入れて……気持ちよくなって……？
ううん、一緒に気持ち良くなろ……？
ん……、はい、どうぞ。
もう、私の……、貴様を受け入れる為に粗相し続けてるぞ♪
入れてくれ……こんなだらしない、はしたない秘部に……、
……え？　今、なんて。
す、き……と言ったのか？　貴様が、私……に？
ぅ、ぅぁぁぁぁ……。ぁ、ぁぁ……。
そ、そうか、そうかそうかそうか♪　物好きな男だな。
うん……、
私もだぁい好き♪
貴様の……、……大好きなあなたの立派なイチモツ……、
ください♪
はい……♪　たぶん、後ろからなら……入りやすいから。
っふふ♪　ひとの姿で獣の交尾とは、いささか滑稽かな……？

……入れてください♪　あ、な、た……♪
……ひぐぅッ！？　ぃ、ぁ……ぅ、……あ、だ、大丈夫、だ。
痛く、ない。痛いわけが、なかろう。これだけ……濡れて、いるのだ。
それに、貴方のを受け入れる行為が、苦痛なはずが、ないだろう。
幸福、極まりない、さ。
……遠慮……してるのか……？
うごいていいよ♪
犯して狂わせて……私を蹂躙してッ……支配してッ……！
だって、だって、こんなにも……あぅッ！　気持ち、いいんだから……♪
あは……♪　あははは……妙な笑いがッぅあ♪　……こみ上げる、な。
笑うしか、ない。快感、が、つよすぎて、言葉ッ出なッ……♪
ぅひぁッ！　ぁ、あッ♪　ぁア♪　ぃ……ぃま、貴方、は……、
私と……ひとつ、にッ……ぁ♪　なってるぅ……♪
ああ……ぁああ……しぃあぁわぁせぇ♪　す、き……しゅきぃ……♪
ぎもぢィッ……想像、よりッ……ずっとずっとずっとずっと……イイッ♪
ぁひッ……♪　ぁッ♪　ぁあぅ♪　んァ♪　これが交尾ッ……ひとのッ……♪
ひッ？！　やぁあッ……こん、な、む、胸、そんな激しくいじらないでッ、
ゃだッ……、あ、貴方の手ッ……手つき、野蛮だッいっイヤらしすぎッ……！
ひッぃッ……ぎもぢッ……でも好きッこれ好きッ……や、やめないでッ……♪
ごめッなさッ——私もッわけ分かんなくて、頭ん中、ぐちゃぐちゃでッ……！
……、ぇ、へ？　どして、止めるの……？
ぇ、え……？　正面……って？　ぁ、あ、あ、待って、待って。大丈夫……。
んぅッ……よ、よい、しょ……。
……あ、はは……つながったまま、……見つめ合うのは……こそばゆいな。
ん……なぁに？　……、……する？　……うん、する♪
んー♪　んちゅッ……んッ……ちゅッ……ぇぉ……♪
れぉッ……くちゅ……んふふッ♪　ぅ……ちゅッちゅッ……♪
ぷは——……、好き♪　好き♪　もっとしよ……。
んっ♪　んぅう♪　ちゅっ……ちゅっ……♪　んぅうー♪

んぅッ……ん……、……ンンッ！？
くふぅッ……？！♪　ぷはッ——ぁッあッぁッ♪　ぁアァッ♪　ぎもぢッ♪
は、はひッ、ぎもぢぃですッ……貴方のッ、おちんちんッ……最高でずッ♪
舌交わって……交尾、最高ッ……で、でもこれ、恩返しなんだからッ……、
し、しっかり……気持ちいいッ？　んぁッ、気持ちよく、なれてるッ？
……んッ♪
ぎゅッ、ぎゅ……をッ、……ほ、抱擁、して！　お願いッ……、
あッ♪　ぅふ♪　好きぃ……♪　好き好き好き好きィ♪
貴方にッ大好きな貴方に包まれて……わたひ、頭、飛びそうッ……。
どう、わた、ゥ……私の、身体はッ……♪　……うん♪　嬉しい♪
あぅ、……はぁッ、はぁッ……身も心も、満たされるッようだッ……、
やみつきになる……いいや、もうなってしまった。
んゥッ……！　取り憑かれたよッ……妖の分際で、ははははッ……あぅッ！
ひぁッ……ぁンッ……♪　ね、ねちっこく……腰、振りおって……、
いじわる……♪　私も、……ククッ……ぎゅぅって締め付けてやる♪
ぁはッ♪　切なそうな目だなぁ。ぁひッ……♪
貴方の熱、が、私の中ッんッ焼いてるよッ……地獄の業火よりッ熱いッ♪
溶けて、んッしまいそうだぁ……♪　ああいっそ溶かしてくれ、貴方……♪
ァあッ死ぬッ死にそうッ……気持ち、よすぎてッ……、
悔いはないぞッぁはッ♪　ここで死んでもッ大好きな貴方とつながって、
死ねたならッ……！　貴方に、ひとときの快楽をッ供する事が出来るならッ、
むしろ幸福だッ至福の死だッ……、ッ……えっ？　ぁ、あ……、
ぁッあッ、ぁぁッあッ……♪　うれしい♪　うれしいッッ♪
貴方にッそんな事、私にはッ……有り余りすぎる……言葉、だッ……、
うぐッ、ぅ……キそぉ……またックる……すごいのックるッ……、
貴方も？　ほんと？　イっちゃうの？　……い、いいよおッ。
吐き出してッ……全部、一滴も残さないで……注ぎ込んでッ。
私の中ッ貴方の精魂で満たしてッ……真白に染め上げてッ。
溢れんばかりの愛、私に、くれッくれッくださいッ！

ぁッイクッ……好きッ……スキスキスキスキッ！
貴方もッ、貴方も一緒に……ッ！
イクッ、イクよッ……くッぁッアッ……ッ、す、好きッ――愛してます――
～～～～ッ……！！
ッ～～～～～～～～……！！　い……、……ぁ、ぁ……。
……き、たァ……。
ぁ、ぁあぁ……私がァ、私の全てが……貴方に、貴方で、満たされてる……。
うふふふっ……。
ありがとぉ……♪
幸せだよぉ……。……好き、好き好き。大好き……。
ん……えへへ……。も少し、このまま……つながっていてほしいぞ……♪
ちゅっ……♪

6.あふたぁ

……小鳥が……さえずり始めたな。ふふ。
今宵は……生まれ落ちてから今日（こんにち）までの中、掛け値（ね）なく……濃い夜だった。
貴方は、どうだった……？　……ん♪　なら、いい……♪
ん、どうした？　……ああ、そんな事を懸念しているのか。
確かに、貴方はひと。私は妖。同じ時を過ごせる者同士ではない。
ゆえに、永劫ここにはいられぬ。帰らねばならぬ。
そろそろ、化けの皮も剥がれる頃合いだ。
でもね。
……ひとはどうか知らんが、獣は、受けた恩を生涯忘れぬ。
幾度となく巡る季節も、その日を思えば須臾（しゅゆ）の記憶だ。
特に、この黒野狐――ナガヌキは、な。
だからね、そんなに心配しないで？

私、貴方の事……絶対に忘れないから……。絶対に……。
……貴方……♪
……また、来るね。
大好き。……ちゅ♪